

## 『赤い悪魔』——1850年用カバラ年鑑——

田村 毅

「カバラ年鑑」とは、ひらたくいえば「暦」であり、日の出、日の入り、潮の満干と同時に、星占いによる吉凶を記したものである。「カバラ」は、もともとはユダヤ教の伝統的教義による旧約聖書の神秘的解釈を指すが、ここでもっぱら暦の「秘教的」特色を際立たせるための題辞になっている。日本風にいえば、神社などで毎年出される大安吉日や忌日を記した暦のようなものである<sup>1</sup>。

もう一つのおどろおどろしい題名「赤い悪魔」については、二人の編者の一人であるジェラルド・ド・ネルヴァルが冒頭に置かれた同名の記事で詳しく説明しているのでここでは詳しくは触れないが、すべての悪魔が黒い、暗闇の存在であるわけではなく、赤い悪魔は天界を支配する神に反抗したために、神によって地上に追放された墮天使であり、実は大砲や紙及び印刷術など、人類の画期的な技術的進歩は、一連の悪魔的天才のおかげであると、歴史的な「赤い悪魔」の系譜をダンテやミルトンを引用しつつ描き出している。

つまり、「神宮暦」などは「時刻表」とならんで毎年の隠れたベストセラーになっているが、フランス19世紀でもどうやら星占い表のついた「暦」が流行していたようである。ネルヴァルは友人と組んで、「暦」の体裁を借りてベストセラーの出版をもくろんだのではないかと思われるふしがある。一説には約一万部刷られて大成功したという。ところが毎年の暦が捨てられてしまうように、この本も手元に保存されているものは少ない<sup>2</sup>。

「1850年用」の暦だから、1849年10月6日に「フランス出版総目録」に登録されているが、着想から執筆まで「4日間<sup>3</sup>」というのは大げさにしても、

1 LE DIABLE ROUGE / ALMANACH / CABALISTIQUE / Contenant le Tableau des influences qui dominent sur le physique et le moral de l'Homme; / et la nomenclature des bons et des mauvais génies ; accompagné des / TABLES CABALISTIQUES / à l'aide desquelles chacun peut tirer son horoscope et prévoir son avenir, / ainsi que celui des autres ; / Renfermant en outre des prédictions sur un grand nombre d'hommes politiques, et des prophéties / curieuses sur les grands événements qui doivent arriver, entre autres les / PREDICTIONS DE NOSTRADAMUS POUR 1850, / Précédé d'un petit Traité sur les sciences occultes dans le passé, le présent et l'avenir, la magie de l'antiquité, / la sorcellerie du moyen âge, l'astrologie, l'alchimie, les talismans, le calcul des nombres, / la magie orientale, la divination, la cabale, le magnétisme, etc. / VIGNETTE PAR BERTALL, NADARD, PASTELOT, ETC. / GRAVÉES PAR BAULANT. / Paris - 1850 / Aubert et Cie, Editeurs / Place de la Bourse / Martinon, rue du coq Saint-Honoré, 4 | Duméray, rue Richelieu, 52.

2 Gérard de Nerval, *Œuvres Complètes*, édition par Jean Guillaume et Claude Pichois, la « Pléiade », Gallimard, tome 1, p. 1925-26.

3 *ibid.*

短期間に執筆され刊行されたようである。全 64 ページの小冊子のうち、ネルヴァルが担当したのはページ数にしてほぼ半分の 6 編の記事で、「赤い悪魔」(匿名)、「精霊たちの教義」(匿名)、「革命期の神秘主義」(G. de N.)、「赤い予言者たち」(匿名)、「サン＝ジェルマン」(匿名)、「海の司教」(匿名)である。

短期間に執筆されたこれらの記事は、1852 年 11 月に刊行される大著『幻視者たち』の骨格の一部をなす。この書物には「社会主義の先駆者たち」という副題が付され、書物の内容にはそぐわないという批判が当時から寄せられており、今日でも疑問が呈されている。おそらくはすでに十分に厚くなってしまったという物理的理由だろうが、ネルヴァルがなんらかの理由でこの書物に収め切れなかった一連の記事の中から、この副題にもっともふさわしいものを探すと、「赤い予言者たち」が見い出される。構想の当初はこの記事に加筆修正して書物にしたつもりではなかったのかと推定しうる。

1995 年の大学院ゼミでは「暦」の部分と「赤い悪魔」を中心に読み、96 年度前期には、「赤い予言者たち」を読んだ。志としては、18 世紀から 19 世紀中頃にかけて流行した大衆的な神秘思想の流れの一端を院生とともに把握しようとしたつもりである。興味を抱き自らすすんで難解なテキストの翻訳注解を志望した二人の論を以下に紹介する。いずれも稀観書に属するテキストではあるが、バルザックやミシュレなど、19 世紀フランス文学の底流に流れる時代精神の形成、神話的・神秘主義的思想の解明に役立つと思う。私自身の『赤い悪魔』についてのレポートは別の機会にゆずることにしたい。